

# 令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

## ワークショップ実施計画書

制作団体名	公益財団法人梅若研能会
公演団体名	公益財団法人梅若研能会

内容		
1	始まりの挨拶	先生又は生徒 3分
2	能のお話し	(能の歴史 シテ、ワキ、お囃子(はやし)、狂言等の役割) 2~6 40分
3	装束付け実演	・先生をモデルにして(船弁慶の前シテ静御前の姿に) ・装束付後、能面を付けてのハコビ(すり足歩行)をしてもらう
4	演目のあらましと試技	・船弁慶の共演する場面を実演してみせる
5	能面とハコビの体験	・子方(義経)の候補者6名程度の選抜を依頼 ・生徒に能面を付けてハコビ(すり足歩行)をしてもらう (3人づつ2回)
6	謡の稽古	生徒(6人)は下記の詞章を謡う。声の大きさは選考基準の要素となる <u>(その時義経少しも騒がず打物抜き持ち現の人に)</u> 謡の稽古は全校生徒も対象であるが、コロナ感染を考慮して省略する
	休憩	先生と相談して候補者6名から2名に絞る 10分
7	候補者発表(候補者2名を発表)	7~11 50分
8	大まかな流れでの説明	・太刀を付けてのハコビ(幕から子方の所定置まで) ・太刀の使い方 ・床几(しょうぎ)の座り方・船への乗り降り
9	体験稽古	子方(義経)とシテ(知盛の怨霊)との太刀を合わせる稽古
10	子方(義経)役1人を選抜	1名は予備要員として本公演まで練習をしてもらう 他の5名は、太鼓の稽古(2名)、幕上げ、子方後見等の 楽屋働き(3名)を勤める
11	終わりの挨拶(生徒)	ありがとうございました

タイムスケジュール(標準)
・楽屋入り 13:00    ・準備 13:00~13:20    ・開演 13:30    ・公演終了 15:10 ・片付け ~15:30 注)開演時間:13:30分を例としたタイムスケジュールです

派遣者数
○主指導者 1名 補助者 3名の計 4名 ○スタッフ 1名 ○長机 2 折畳み椅子 4 ハンドマイク 1(用意を願います)

**学校における事前指導**

船弁慶の「歌唱部分の詞章」の CD を渡し、練習を依頼。

稽古用 DVD・・・ワークショップ後に子方(義経)役と予備要員に稽古用として渡す

# 令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

## 本公演実施計画書

制作団体名	公益財団法人梅若研能会
公演団体名	公益財団法人梅若研能会

演目		
始まりの挨拶 (第一部)	先生又は生徒 (狂言を見て体験してみよう)	2分
1 狂言	「雷(かみなり)和泉流」大蔵流は「神鳴」の表記となる	15分
2 狂言の所作の説明	人物、動物等のセリフ、鳴き声等 * 子方(義経)は着替えをする	15分
3 全員で挨拶	ありがとうございました	
(第二部)	(船弁慶の通し稽古)	
4 義経の稽古	装束を付けて登場 幕から舞台に出て、所定の場所で舟に乗り、 怨霊との斬り組みから引くまでの動きを練習する。	8分
5 太鼓と謡の稽古 (太鼓に合わせて)	・太鼓を打ってみよう・・・ 謡の代表2名と太鼓方との稽古 ・「その時 義経 少しも 騒がず 打物 抜き持ち 現の人に」	15分
	(休憩) * 舞台に入らないよう指示する	10分
(第三部)	(船弁慶の鑑賞と体験)	
6 能 船弁慶	・共演してみよう(生徒が義経の装束を付けて登場する) ・ワークショップでの知識をもとに、能を楽しみましょう	25分
7 終わりの挨拶	ありがとうございました。 先生又は生徒	
8 感想・質疑	・共演・鑑賞した生徒の感想及び質疑(先生・生徒・保護者)	10分

派遣者数	
出演者 シテ方 11名 ワキ方 2名 狂言方 3名 囃子方 4名 計 20名	
スタッフ 1名、 舞台業者1名・運搬業者1名	合計 23名

## タイムスケジュール（標準）

・楽屋入り 11:00 ・舞台組立て 11:00～11:40 ・開演 13:30 ・公演終了 15:10

・舞台撤去 15:50

注)開演時間:13:30分を例としたタイムスケジュール

## 実施校への協力依頼人員

よしつね

・義経の候補者6名程度選抜と最終1名にする相談と協力

・義経(子方)役以外の5名は謡と太鼓の体験稽古と楽屋働きをする

## 演目解説

きょうげん かみなり いずみりゅう

狂言「雷 かみなり 和泉流」のあらすじ

えんもく ひょうき りゅうぎ かみなり かみなり ひょうき  
\*演目の標記は、流儀により神鳴・雷の表記となる

みやこ す やぶいしゃ かせ どうごく たび とうちゅう ひろ のはら で  
都に住む藪医者がかみなりと東国へ旅をする途中、広い野原に出た。

きゅう そら くら お くも き め みそこ  
すると急に空が暗くなり、雷様がガラガラと落ちてきた。雲の切れ目を見損なって

ちじょう こし ほね つよ う ちりょう めい はり こ  
地上に落ち、腰の骨を強く打った。治療を命じられた藪医者が、針を雷の腰に打ち込

いた さわ なお かえ ちりょうだい せいきゆう  
むと痛みが騒ぐ。やがて痛みが治り帰ろうとするので、藪医者はあわてて治療代を請求

も あ あめかぜ ひで  
するが、雷は持ち合わせがないため、八百年にわたって雨風をコントロールして日照り

すいがい まも やくそく てん  
や水害から守ることを約束して天に帰っていった。

ふなづんけい  
能「船弁慶」のあらすじ

げんじ へいけ あらせ ものがたり おお よしつね べんけい どうじょう  
源氏と平家の争いの物語で多くの人知っている義経や弁慶が登場するわかり

のう ぜんはん しずかごぜん わか ぼめん しょうやく  
やすい能です。(前半は静御前との別れの場面ですので省略します)

さいこく い ふね かいじょう だ さいしょ は そら くら くも ま  
西国へ行くために、船を海上に出すと最初は晴れていた空に黒い雲が・・・間も

おそ ぼうふう ふ うみ あ おおなみ ただよ こ は せんどう  
なく恐ろしい暴風が吹き、海が荒れて船は大波に漂う木の葉のよう。船頭(アイ)が

あ くる なみかぜ かくとう ぼめん だんのうら ほろ  
荒れ狂う波風と格闘する場面が見ものです。壇ノ浦(山口県下関)で義経に滅ぼされた

へいけいちぞく たいらのともり おんりょう あらわ こかた おそ か  
平家一族の平知盛の怨霊が現れて義経(子方)に襲い掛かります。怨霊は、弁慶

ひっし いの よ あ おき かなた すがた け  
の必死の祈りによって、夜が明けるころ沖の彼方へと姿を消すのでした。

#### 児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

能 船弁慶では、義経(子方)の役を生徒に出演してもらいます。  
友達が能装束をつけて舞台上上がると、始めて見る装束のため、強い関心を示して生徒たちの集中力が途切れることはありません。

また、代表の生徒たちによる太鼓の稽古と謡いの練習など、体験参加を主体とした公演にしております。過去4年の公演で、この方式を採用してまいりました。能への理解と関心を高める効果があると受け止めております。

#### 児童生徒とのふれあい

この公演では、生徒全員に「すり足歩行」と「謡い」の体験をしてもらい、視ている、聴いているときは、簡単と思えた「歩く」、「謡う」ことの難しさが分かります。難しいゆえに生徒たちとの「ふれあい」が生まれ和やかな雰囲気を生じています。

また、公演が終了すると、知盛の怨霊(シテ)の能楽師が装束を付けた状態で、「質疑応答」に入ります。聞きたいことは何でも質問するよう誘導に努めており、能面をつけた舞台上での感覚、どうして能楽師になったか等活発な質問があります。この「質疑応答」が能の理解を深める「ふれあい」の場ととらえています。